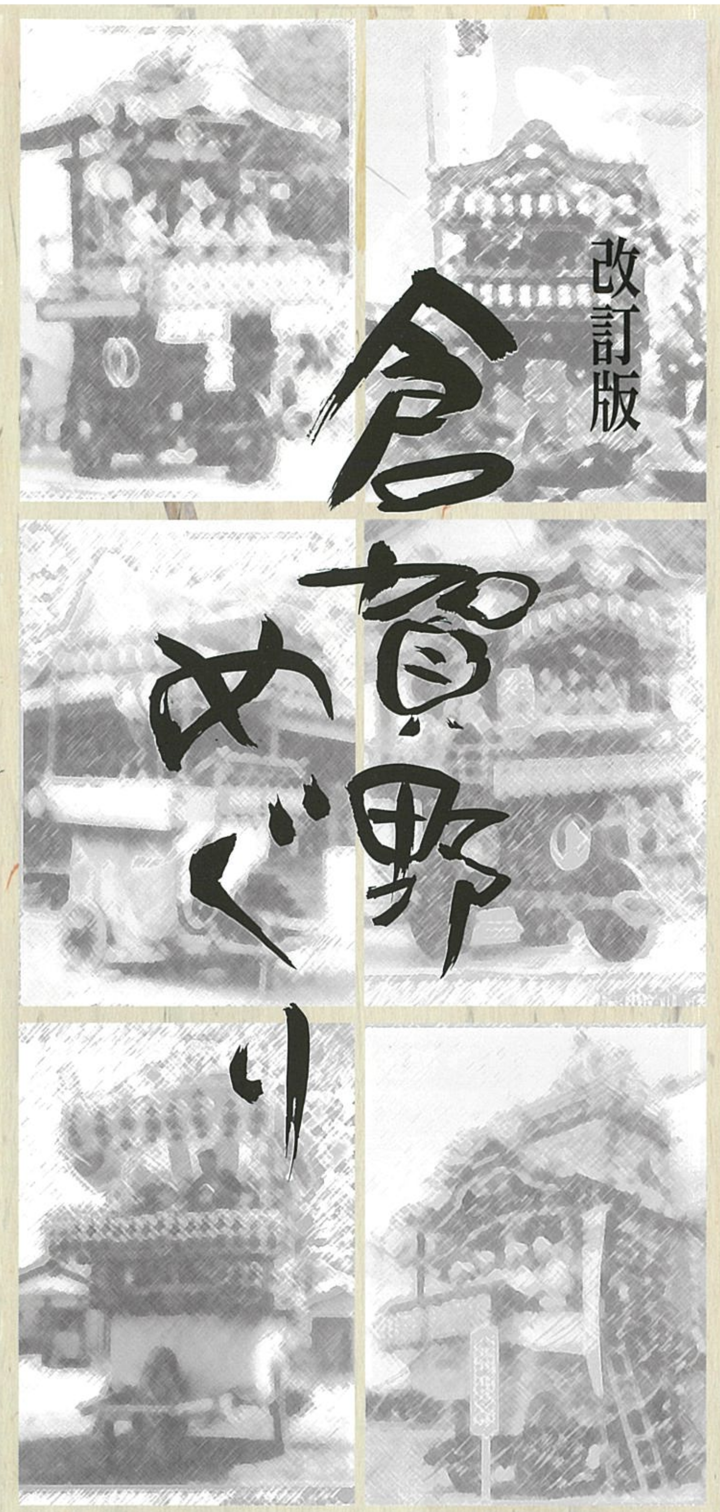
# 改訂版 倉賀野めぐり



倉賀野（英泉 木曽路街道六十九次）

作　成：倉賀野まちづくりネットワーク
監　修：倉賀野宿の会
倉賀野観光ガイドの会
発　行：高崎市観光課

## 倉賀野の歴史

四世紀末頃からこの地域には浅間山などの大古墳が築造された。やがて鎌倉時代になると、この地に落ち着いた武蔵児玉党の一族が倉賀野氏を名のり、応永年間に戦略的に重要な拠点として倉賀野城を築城した。戦国時代には上杉・武田・北条氏の勢力争いに巻き込まれ、倉賀野城は永禄七年四月武田氏の攻撃により落城、その後武田氏滅亡後は一時織田氏の支配となったが、天正十年からは小田原北条氏の傘下に入り、天正十八年（1590）小田原城落城と運命を共にし、その後廃城となった。

江戸時代に入り中山道が整備されると、倉賀野宿には本陣・脇本陣が置かれ、次いで日光例幣使道の基点にもなった。また、烏川には倉賀野河岸が開かれ、江戸と諸国とを結ぶ物資輸送の中継基地となったことから、宿場は参勤交代の武家・日光例幣使（公家）や一般旅行者、船頭、人足、町人等で大変賑わった。享和三年（1803）の記録によると、家数四五三軒、旅籠屋六四軒、人口二二五六人と当時の繁栄ぶりが偲ばれる。

## 街道

**❶ 中山道**（六十九次）
江戸時代の五街道のひとつで、江戸日本橋から京都三条大橋までを結ぶ。倉賀野宿は江戸日本橋から十二番目の宿で江戸から約二五里、二日半の行程であった。

**❷ 日光例幣使道**
中山道を倉賀野宿で分かれ日光に至る街道。日光東照宮の毎年の例祭に合わせて、京の朝廷から金の御幣を託された例幣使の日光への参拝道。

**❸ 道しるべ**（市指定史跡）
中山道と日光例幣使道の分岐点にあり、「従是右江戸道、左日光道」と刻まれる。

**❹ 常夜灯**（市指定重文）
道しるべの背後に建ち、竿部の西面に「日光道」南面に「中山道」北面に「常夜燈」東面に「文化十一年甲戌正月十四日　高橋佳年女書」とあり、台石の四面には江戸相撲雷電為右衛門等三二一名の寄進者名がある。

**❺ 一里塚跡**
幕府は重要街道には江戸日本橋から一里ごとに「一里塚」を築かせた。倉賀野の一里塚は江戸から二六番目のもので、安楽寺の100メートルほど西の道の両側にあった。塚の頂上には榎が植えられていたという。

## 宿場と河岸

**❻ 本陣と脇本陣**
倉賀野宿には本陣一（勅使河原家）と脇本陣二（須賀喜太郎家・須賀庄兵衛家）が置かれた。本陣は大名・公家用で、脇本陣はその家来や一般の旅行者が宿泊した。

・**脇本陣須賀喜太郎家**（須賀喜）非公開
「須賀庄」と並ぶ河岸問屋で脇本陣。
現在の建物は明治中期のもので、連子格子に卯建をあげた母屋と附属屋（番人小屋）は宿場の面影を伝え、裏手の薬医門や桁行十間の土蔵・味噌蔵は江戸期の建築と伝えられる。

**❼ 問屋場（人馬継立場）跡**
伝馬制は、宿から次の宿へ、大名や公用の荷物を運ぶための人足と馬を常備することが、幕府より義務づけられ、これらの業務を円滑に行う為、倉賀野宿には上町、中町、下町のそれぞれに問屋場が置かれた。かつて、中町の問屋場があった場所には人馬継立場跡の碑がある。（中町の問屋場は時代により置かれた場所は異なる）

**❽ 高札場跡**
江戸時代、往来の多いところに、法令、禁令などを掲示した場所。

**❾ 木戸跡**
倉賀野宿には、中山道の京方向から宿場に入る上の木戸、江戸方向から入る下の木戸が置かれた。

**❿ 五貫堀**
長野堰幹線用水路を倉賀野堰で分水した倉賀野地区の水田を潤す用水路。蓋を敷設し暗渠化される以前、水車が設けられ、魚獲りもできた。

**⓫ 太鼓橋**（寶蔵橋）
享和三年（1803）に板橋から石橋に架け替えられた。当時珍しいアーチ式の石橋で建設費二百両余りは旅籠屋の拠金で、一説には飯盛旅籠の溜銭であるという。

**⓬ 古堤、新堤**
倉賀野堰は長野堰末流にあたり、下流地域で不足する農業用水の溜池。

**⓭ 倉賀野河岸**
江戸時代初期に、幕府から公認された、利根川筋最上流の大河岸。江戸湾（東京湾）から五〇里の船路で、上りは塩・茶・干鰯などが、下りは上信方面の諸大名・旗本の廻米及び麻・煙草・板材などが輸送された。江戸期を通じて繁栄した河岸も、明治十七年に鉄道が開通すると急速に衰えた。

**河岸道**
中山道から井戸八幡宮への参道を通って河岸に至る道と、横町から南へ下る道が河岸道といわれている。荷下ろしなどで他の通行の妨げにならないように道端がノコギリ状になっている。

**牛街道**
河岸と問屋場を結ぶ河岸道の一つ。この名は河岸に荷揚げされた主として俵詰めされた塩を、信州方面に運ぶために、背中に塩俵を積んだ多くの牛が通った道のことである。

**大杉神社跡**
倉賀野河岸を見下ろす位置に建っていた。元は雷電神社であったが、弘化三年（1846）常陸国（茨城県）安波の大杉神社を勧請し社殿も改修、雷電大杉神社として河岸問屋・船頭らに信仰されたが、明治四十年頃井戸八幡宮に合併された。

⓭倉賀野河岸跡

⓫大正13年五貫堀に架かる太鼓橋 上部は中仙道

❽高札場

❻脇本陣跡

❸道しるべ ❹常夜灯

## 歴史を語る建物

**⓮ 倉賀野古商家おもてなし館**（旧大山家）
中山道から北へ入る郷蔵道の角、なまこ壁を見せる蔵造りの商家「大黒屋」。明治期の建築で、平成二十七年七月に観光客の休憩施設「おもてなし館」として開館。

**⓯ 大山家「大山小児科」**（非公開）
（たかさき都市景観賞）
昭和八年（1933）、中山道拡幅の際に建築。主屋、塀、門、松、土蔵が整った景観をみせる。

**⓰ 吉野家「叶屋」**（非公開）
かつては造り酒屋で、屋号が「叶屋」。主屋は明治期の建築で、正面の連子格子が美しく、また通り庭の痕跡に造り酒屋当時の風情が残る。

**⓱ 矢島五左衛門家**（非公開）
江戸時代は名主を務め、当主は代々五左衛門を襲名。建物は昭和八年（1933）、中山道拡幅に伴い建築。宿場建築の雰囲気が残る。同家の北側は下町問屋場跡。

**⓲ 清塚家**（非公開）
主屋は典型的な明治期の養蚕農家。他に土蔵、物置、庭、垣根やカシグネなどがあり、かつての農家の屋敷構えがみられる。

## 寺・神社・まちの史跡

**⓳ 安楽寺**（天台宗）
「七仏薬師」の名で知られ、天平九年開基の伝承がある古刹。本堂の裏山は古墳時代後期の円墳で、石室内の七体の石仏は秘仏で十二年毎の巳年に開帳（県指定史跡）。他に異形板碑（市史跡）、鼠供養塔等がある。

㉒養報寺「石仏五体」

⓳安楽寺「七仏薬師さま」

⓲清塚家

⓱矢島五左衛門家

⓰吉野家「叶屋」

⓯大山家

⓮古商家おもてなし館

⓭牛街道

**⑳ 永泉寺**（曹洞宗）
天正元年（1573）倉賀野城主金井淡路守の開基。境内には奇石幽霊石、墓地には金井淡路守夫妻の墓、加賀藩御典医の灰塚、勅使河原家等、宿内有力者代々の墓もある。

**㉑ 九品寺**（浄土宗）
延徳二年（1490）倉賀野五郎行信開基。本尊阿弥陀三尊の他に秘仏善光寺式三尊像（市重文）がある。墓地には倉賀野十六騎の須賀佐渡守・五十嵐紀伊守、幕末の国学者飯塚久敏の墓のほか飯盛女の墓もある。

・**九品寺門前の橋供養塔**
文化四年（1807）の巨大な念仏供養塔の裏側に「百万遍橋供養」の文字がある。享和三年の「太鼓橋」の橋供養塔と思われる。

**㉒ 養報寺**（高野山真言宗）
至徳三年（1386）開基。倉賀野山地蔵院と号す。江戸時代は高二三石の朱印寺。本寺は明治期に廃寺となった末寺から移設された文化財がある。・中世の石仏五体（長賀寺より、市重文）奪衣婆像（神宮寺より）・山門前の「御神燈」（三光寺より）。この外に村上鬼城句碑（市重文）等がある。

**㉓ 林西寺**（高野山真言宗）
永正十三年（1516）開基。山門の手前に宮原十一面観音、清水観音、馬頭観音が並ぶ。本堂の西にある大師堂は東京高輪の高野山真言宗東京別院の管長部屋を移築したもの。

**㉔ 倉賀野神社**
倉賀野宿と近隣七ヶ郷の総鎮守で、旧社名は飯玉宮。明治末の国策により宿内数社を合祀合併して明治四十三年に現社名に。境内には冠稲荷、北向道祖神、飯塚久敏と良寛の碑。本殿（市重文）・算額（市重文）・飯盛女寄進の玉垣・天明の神輿・上野探雲筆の「雲龍図」・社宝「翁面」等多くの文化財がある。

**㉕ 井戸八幡宮**
正保三年（1646）、倉賀野城二の廓跡に一夜にして出現した井戸が起源と伝えられる神社。井戸はいまも残る。

**㉖ 諏訪神社**
永禄年間（16世紀中頃）倉賀野城主金井淡路守が信州諏訪大社より勧請という。境内には奉納子供相撲の土俵がある。

**㉗ 冠稲荷**（別名　三光寺稲荷）
倉賀野宿のほぼ中央にあり、旅籠や飯盛女の信仰を集める。明治四十二年（1909）、倉賀野神社に合祀され一度は廃絶されたが、後に社殿を再建。

**㉘ 閻魔堂**
江戸時代には阿弥陀堂と呼ばれ、閻魔堂の呼称は明治以降。閻魔大王は地蔵菩薩の化身といわれ、信仰すれば地獄に落ちず、救われるといわれている。

**㉙ 倉賀野西古墳群**
・**浅間山古墳**（国史跡）
4世紀末頃の築造とされ、墳丘全長172メートル・二重の周濠を巡らす県内第二位の巨大前方後円墳。
・**大鶴巻古墳**（国史跡）
浅間山と同時期の築造とされ、墳丘全長123メートル・巨大な周濠を巡らす前方後円墳。
・**小鶴巻古墳**
全長約87メートルの前方後円墳。前二古墳よりやや下る時期の築造とされ、墳頂部竪穴式石室には石棺があるという。

**㉚ 倉賀野城址**
鎌倉時代、武蔵児玉党の一族が倉賀野氏を名のり、一四世紀末にその子孫が倉賀野城を築城。戦国期、上杉、武田、後北条の勢力の狭間で、天正十八年（1590）豊臣秀吉の小田原攻めの際に開城し、その後廃城。現在、雁（かりがね）公園に城址碑がある。

㉚倉賀野城址

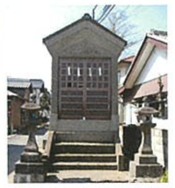
㉙大鶴巻古墳

㉙浅間山古墳

㉘閻魔さま

㉗冠稲荷

㉖諏訪神社


㉕井戸八幡宮の井戸

㉔倉賀野神社

㉓林西寺

㉒村上鬼城の句碑

⑳永泉寺・金井淡路守の墓